

令和6年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【春野小学校】

⑥	次年度への課題と授業改善策
知識・技能	学力や生活経験について個人差が大きいので、自分で選択して学習に取り組むことで既習内容の理解を深められるよう、時間の確保と適切な課題設定をしていく。授業中の支援についても、担任、少人数指導の教員、SA間での情報共有を密にし、必要な児童へ支援していく。 「主語・述語」の読み取りに課題があることがわかったので、今年度の研修の成果を生かし、各教員の指導の工夫を共有し、効果的な指導法を研究していく。
思考・判断・表現	表現の活動について、児童にとって取り掛かりやすい方法を工夫していく。文章による表現だけでなく、文字の色や大きさ、言葉同士をつなぐといった表現方法の技術を知ることで、話すことや聞き取ることの経験を豊かにしていきたい。 文章の読み取りについて課題がみられるので、読書タイムを6年度以上に確保していく。また、図やグラフの活用能力は高いので、多様な資料を用意することで表現の材料を増やし、書く力を伸ばしていきたい。

①	今年度の課題と授業改善策	
	学習上・指導上の課題	授業改善策【評価方法】
知識・技能	<学習上の課題> 多くの学年において「知識・技能」は「思考・判断・表現」の結果を下回る。 過去の学年の学習内容が定着していない児童へのフォローが必要である <指導上の課題> 授業において習熟に差がある。 授業後の学習内容の定着に課題が残る。 学習者用端末の日常的、主体的な活用が十分でない。	習熟度別の学習を設定する。【学力・学習状況調査や自校調査】 ICT活用により、過去の学習内容の定着を図る。【ICTタイム実施・端末持ち帰りに関する課題設定】 学習者用端末の使用のルールづくり・有効活用。【ICTタイム実施・端末持ち帰りに関する課題設定】 繰り返しの学習の積み重ねを意識して安定した学力の定着を目指す。【授業後・単元後の振り返り】
思考・判断・表現	<学習上の課題> 調査から「書くこと」に課題がみられた。 <指導上の課題> 自分の考えを書くことや相手の考えを読み取る活動が十分でない。 何をすべきか、どこまで目指すかを児童が理解して進められるように示す必要がある。	様々な教科において、書く活動・書いたものを読み取る活動を取り入れる。【導入・振り返りでの実施】 自分の課題を設定・選択する力をつける【導入・モデル学習】

⑤	評価(※)	授業改善策の達成状況
知識・技能	B	朝に設定したICTタイム以外にも、授業中に練習問題に取り組むタイミングでドリルパークやスタディサプリを利用した。いずれも過去の学年の問題や講義動画を自ら選択して苦手を克服しようとする児童の姿がみられた。 ほとんどの児童に、間違えた問題について再び戻って取り組み、正解させて終わらせる習慣がついている。
思考・判断・表現	B	ICT機器を利用した表現への意欲は強く、Kahoot!やSongMakerを用いた活動においては活発に意見を交換して試行錯誤する姿がみられた。また、学習のまとめをノートに書くかわりにFormsを用いて選択・記入することで、普段は考えを書くことに困難がある児童も根拠を明らかにしつつ考えを表現することができた。

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)	
知識・技能	国語において、5年生で学習した漢字は書けないが、4年生で学習した漢字は書けるという回答の傾向が強い。新出漢字を確実に習得できるよう手立てを講じる必要がある。 算数において、割り算に顕著な課題がみられた。計算の技能に加え、除数・被除数の関係の理解を深めたい。また、速さの概念の理解にも課題がみられた。掛け算・割り算を確実に習得しつつ、速さの意味の理解を深めたい。	
思考・判断・表現	国語において「C読むこと」のカテゴリの3問すべてにおいて課題がみられる。特に「登場人物の気持ちを考える」問いについて落ち込みが大きい。解答類型をみると、人物の気持ちを読み取れた行動が何であるかをとり違えている回答が多く、語彙を増やしたり、場面を想像する力をつけたりする必要があると考えられる。 算数において、正解の選択肢を選んでいるものの、その理由についての説明が不十分、またはかけていないという回答が大半多く、理由について十分な説明をする活動を重視したい。	

①結果分析(管理職・学年主任等)

②詳細分析(学年・教科担当)

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)	
知識・技能	国語の「書くこと」において継続して課題がみられた。「文章の中心をさがす」「主語と述語の関係を理解する」内容の問題にも課題があることから、文章を読む・書く両方の経験が不足していると考えられる。算数の「図形」についてはどの学年も昨年度と同集団の結果から向上がみられた。下の欄の理科の分析も踏まえ、身に付けた知識を確かなものにするだけでなく、変形するなど自ら応用し取り組むようにしたい。	
思考・判断・表現	理科の「乾電池のつなぎ方」「植物のからだのつくり」等に代表される、既習事項とは別の図や例について考える問題において、各選択肢に回答が分散し、正答率は低かった。実験を通してわかったことを、実際の事象にあてはめる活動を増やしていきたい。 同集団経年比較のデータから国語「思考・判断・表現」をみると、各学年とも微増となった。引き続き文章を読み取り、思考する活動を重視していく。	

③	中間期報告		中間期見直し
	評価(※)	授業改善策の達成状況	授業改善策【評価方法】
知識・技能	B	業前の活動として設定したICTタイム内で、自分の課題に取り組む機会を持っている。高学年についてはタブレットを持ち帰り学習しており、スタサブの課題に進んで取り組む児童もみられた。	課題のある児童ほど、タブレットを正しく使っているとは言えない状況にある。適正な使い方の指導を進めるとともに、できる問題だけに取り組むのではなく、できない問題に取り組む態度を身に付けさせたい。【適宜指導・模範の減少】 また、現在の学習内容だけでなく、いつでも過去の課題に取り組めるように広い範囲で設定していく。【課題設定】
思考・判断・表現	C	思考・判断・表現するための材料としての過去の学習内容の定着に迫られている。既習内容の理解が進んでいる児童については、根拠を明らかにしつつ説明する機会があるが、多くの児童が自分のこととして思考する態度を育てる必要がある。	上記取り組みを推進し、思考・判断・表現できる基礎を作る。 各自が課題をもつ、予想をする活動を重視し、自分の学習として思考できる授業を行う【課題設定時】 様々な考えを比較し、他の考えを理解する機会を意識して授業を行う【繰り返し】

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)